

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 柄杓田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

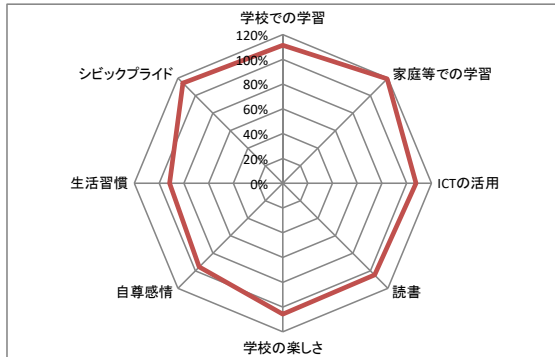
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・物語や資料を読み取り、選択や短答の問題は正答率が高い。しかし、自分の考えや要約等の記述する問題には課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかを見る問題。	
	努力が必要な問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中点を捉えることができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	示された基準量と比較量から、割合を求める問題や面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く問題と二つのグラフから、人数に着目して、分かることを書く問題等の記述問題に課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表からの変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
【学びの育ち】	・「学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」「授業で学んだことを他の学習に生かしているか」の問いに対して100%の児童生徒が肯定的に回答している。個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えていることが実証できた。一方で、授業以外に普段の1日当たりの読書時間が全国と比べると少ない。今後も学校全体で授業改善を進め、基礎的な内容の定着を図るとともに、児童が「わかる 楽しい」と思える授業にすることが必要である。
【心の育ち】	・「学校に行くのが楽しいと思うか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」の問いに100%の児童が肯定的な回答をした。学校・家庭・地域が連携してきた取組の成果といえる。しかし、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに全国の結果と比べると、約10%ほど低い。これは、一人一人が自分の良さを感じ、自信をもって行動することのよさを感じ取れる教育活動の充実を更に図る必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・授業の中で、自分の考えを書いたり伝えたり、多面的・多角的な話し合い活動や個別最適な学びで、児童の自己有用感等に影響を与えること。
- ・授業公開を行い、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった 楽しい」と思えるような教師の授業の質を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・生活習慣や家庭学習の充実について、学校通信、学校HP、懇談会等で学校と家庭が連携を取る。
- ・インターネット等の情報モラルについては、専門機関等と連携して啓発に努める。